

こんにちは♪ 「めっちゃ、ハロウィンじゃん！」 図書館はハロウィン一色です♪  
ところでみなさんはハロウィンについて正しい知識を持っていますか？ ハロウィンは単なるかぼちゃのお祭りではなくて、もともとはケルト起源の冬を迎えるためのお祭りでした。死者の魂が戻ってきたり、ホーキに乗った魔女が悪さをすると信じられていたのも、冬で生命力が弱まるから。Trick or treat! (お菓子をくれなきゃ、いたずらするぞ!) もケルトの言い伝えからです。ちなみにみんな大好きハロウィントウンの王ジャックの名前は、ジャック・オー・ランタン (かぼちゃちょうちん) にちなんでいます。

**10/28 (月) からハロウィンやります!** いつもは天使のせーやさんも悪魔に変身し、**本を借りてくれた人には、もれなくお菓子をあげます!**  
たくさん借りてくれた人には、その分だけ。「Trick or treat!」と言わなくてもあげるから、くれぐれもイタズラはしないようにね! ハロウィンは図書館へ! そして、ハロウィンと同時に、**図書館フェア**が幕を開けます! お楽しみに♪

あ、**しおりコンテスト、絶賛展示中**です! じゃんじゃん応募してくださいね!

## あめくたかお **<天久鷹央>シリーズ 知念実希人**

本校でも大人気の知念実希人さんの、診断医・天久鷹央が難事件を解決する医療ミステリがついにTVアニメ化! ややこしくなく親しみやすく面白い謎解きのミステリを探していたあなたにオススメです。短編集の「**天久鷹央の推理カルテ**」シリーズと、一冊一話の長編「**天久鷹央の事件カルテ**」シリーズがあります。ぜひ両方ともコンプリートしてください! 「お前の病気、私が診断してやろう」。一族経営である天医会総合病院の10階屋上にある統括診断部の長である天久鷹央は、27歳だけれど小柄で童顔のため、高校生、時には中学生に間違えられることがあります。視覚過敏と聴覚過敏でカレーライスと甘いものしか食べない超偏食、採血ができず予想外のことが起きるとパニックになりやすいなどおおいに偏ったところのある人物だが、アスペルガー症候群、広義のサヴァン症候群による超人的な記憶力・計算力・知能の持ち主で、その特殊能力を生かして統括診断部に持ち込まれたあらゆる事件を解決してしまう…。さて、続々刊行の最新刊は「事件」のほうで、タイトルは『**猛毒のプリズン**』! 山奥に聳え立つ洋館に招かれた天久鷹央を待っていたのは、計算機工学の天才、九頭龍零心朗からの「最後の依頼」だった。捜査を開始し間もなく、とある「殺人」が起きて…。

### 『六人の嘘つきな大学生』 浅倉秋成

『王様のブランチ』BOOK 大賞受賞作が、ついに映画化！  
「ここにいる六人全員、とんでもないクズだった」。躍進するIT企業「スピラリンクス」初めての新卒採用。最終選考に残った六人の就活生に与えられた課題は、一カ月後までにチームを作り上げてディスカッションをするというものだった。「みんなで、同僚になりましょう」。六人は交流を深め全員内定をめざすが、本番直前に課題の変更が通達される。「六人の中から一人の内定者を決める」。仲間だったはずの六人は、ひとつの席を奪い合うライバルになった。そんななかで個人名が書かれた六通の封筒が発見される。封筒を空けると「××は人殺し」だという告発文が入っていた…。「封筒の中から出てきたのは僕が心から大好きになれた人たちの、知られなくなかった過去であった」。「一面だけ見て人を判断することほど、愚かなことはないのだ」。

### ☆☆『大使とその妻』上下 水村美苗

なんと12年ぶり、待望の新作長編小説です！これが実にすばらしい！「古典の風格を湛えた」と帯にあります、まさにそのとおり！今年度のマイベスト確定です！「古きよき日本」が大好きで、「失われた日本を求めて」というプロジェクトまで立ち上げた日本在住のアメリカ人のケヴィンは、25年ものあいだ、夏には軽井沢の人里離れた別荘でひとりで過ごしている。別荘と言っても、小さな簡素なものだ。唯一の隣家は、空き家で荒れるに任されていた。ところが、ここ数年、見る見るうちに軽井沢の開発が進み、醜悪な建物が増えていくのをいまいましく思っていると、その隣家も開発の魔の手から逃れることができなかったのだ。大規模な増築工事が始まる。絶望的な思いでいると、思いもよらぬ展開となった。工事の車のナンバーは京都で、わざわざ京都から大きな庭石を運んで日本庭園を造るのだという。さらには、宮大工が伝統的な日本家屋、書院造りを建てるのだそうだ。住人は南米から帰国した元外交官夫妻。人嫌いのケヴィンも彼らとは親しくなる。彼はその妻・貴子に日本の最良の部分を見る…。「それにしても、不思議な人であった。かくも昔風の印象を与える日本の女の人は見たことがなかった。少なくとも、あの歳の人では見たことがなかった。それでいて、かくもコスモポリタンな印象を与える人を見たこともなかった。どうということもない会話が多かったが、そのどうということもない会話を違和感を覚えずに人と交わされる喜びを私は初めて知った。しかも、それが、今まではいつも薄い幕で覆われているように感じていた日本の人を相手にである」。

### 『<sup>そら</sup>宙わたる教室』 伊与原 新

こちらは、読書感想文課題図書に選ばれ、NHKでTVドラマ化された傑作！大阪府のとある定時制高校・科学部。2017年、科学研究の発表会「日本地球惑星科学連合大会・高校生の部」で優秀賞を受賞。彼らの実験装置は意外な人物の目に留まり、「はやぶさ2」の基礎実験に科学部として参加するまでに…。この実話に着想を得て生まれたのだそうです。「火星の夕焼けは青いんですよ」。東京・新宿にある都立高校の定時制。そこにはさまざまな事情を抱えた生徒たちが通っていた。定時制と言えば誰もが想像するような、絵に描いたような有り様だった。ところが、今年度から赴任してきた理科を専門とする教師・藤竹によって、変わっていく。ひとりひとりに寄り添うことで、生徒の抱えている問題を解決していくのだ。「やりたい部活がねーよ」と言う生徒に、藤竹は「科学部」の設立を提案する。藤竹によって、科学の魅力に目覚めた生徒たちは、やがて「火星のクレーター」を教室に再現しようとする実験をするまでになる。煌々と明かりの灯った夜の定時制の教室で、「火星」が作られる…。

### 『<sup>あい</sup>藍を継ぐ海』 伊与原 新

「今日も日本のどこかで大切な何かを受け継ぐ人がいる」。『**月まで3キロ**』『**八月の銀の雪**』に連なる傑作科学短編小説集！タイトルの「藍」は、黒潮のこと。黒潮は、海の中を流れる、濃い濃い碧色の、大きな大きな川に見えるのだそうです。一匹のウミガメを介して、徳島の海辺の小さな町・姫ヶ浦とカナダの島の集まり・ハイダ・グワイがつながります。中学2年生の沙月はアカウミガメを自分で育てようとして、午前3時半に浜に降り立った。卵をひそかに5つ失敬しようというのだ。なんとか卵を掘り出すことに成功したところに、ビーチコーミング（海岸や浜辺に打ち上げられた漂流物を拾い集める趣味）をしている外国人と出会ってしまい、きちんと後始末ができないまま立ち去ることに。仲良しで、十年以上も「ウミガメ監視員」を任されている佐和さんのフォローがなければ、たいへんなことになるところだった。ウミガメを自分で育てようとしたのは、初めてではなかった。小学4年生のときに、白いレジ袋に入り込んで取り残されていた子ガメを見つけ、佐和さんの助けを借りながら育て、海に返した。再会した外国人・ティムは、ウミガメの研究者を探していた。なんと彼の故郷のカナダのハイダ・グワイで見つけたウミガメに〈姫ヶ浦 JPN〉と書かれたタグがつけられていたというのだ！それが本当なら沙月が育てたウミガメが、黒潮に乗ってカナダまで辿り着いたことになる！

## 『坂上に咲く』 原田マハ

「その男むなかた しこう《棟方志功》 いちまいの板 一本の彫刻刀で 世界に打って出た。こんな男、ほかにいない」(著者)。アート小説のパイオニアで、本校でも熱烈なファンを持つ原田マハさん。待望の3年ぶりの長編アート小説である今作では棟方志功を描き、みごと泉鏡花文学賞を受賞しました！ 青森の貧乏青年だったムナカタは、17歳でゴッホの〈ひまわり〉を目にした瞬間、「我ワはゴッホになるッ！」と覚醒した。ゴッホに恋い焦がれ、一流の画家になるために裸一貫で上京したムナカタだったが、絵を教えてくれる師も、画材を買うお金もない。看板屋、納豆売り、靴直し、何でもやった。貧苦に喘ぎ、帝展に落ち続けても、挫折せずに己の道を貫けたのは、ムナカタを愛し、信じ、全身全霊で支えてくれた妻・チャがいたからだった。「辛かった。でも、幸せでした——」。弱視の彼は、木版画に活路を見いだす。「版画」が世界を変える。世界のムナカタの誕生前夜を描きます。

## 『幽玄F』 佐藤 究きわむ

中南米の邪神を描いた『テスカトリボカ』で強烈な印象を残し、直木賞と山本周五郎賞をW受賞したあとの今作も、柴田錬三郎賞受賞！ 三島由紀夫と戦闘機へのオマージュ。主人公の名前は、なんと「豊穰の海」最終巻の『天人五衰』に出てくる「安永透やすながとおる」。ミシマが超音速戦闘機に搭乗した体験記「F104」を爆発させたような内容です。安永透は、飛行機が大好きな少年だった。小学生のころは、空にジェット旅客機を見つけるや、追いかけて走った。高校生になると、同好の友達ができ、いままで知らずにいた飛行機についてのたくさん知識を彼から得た。青森県にある航空自衛隊三沢基地の航空祭について知ったのも、彼からだった。「傍若無人な戦闘機に切り裂かれる空」。透は、そこで初めて戦闘機F-16が間近に飛ぶ姿を目の当たりにする。「そのとき透は、自分がなんのために生まれてきたのかを知った」。透は航空自衛隊のパイロットになると決意するのだった。とてつもない難関をくぐり抜け、航空学生試験に一発合格した透は、志願者のうちわずか1%しか残れないF-15のパイロットになった。自衛隊のトップ・パイロットになった彼は、26歳でさらに最新鋭のF-35に搭乗するようになり、その天才ぶりを遺憾なく発揮するようになる。「ただ私は戦闘機という機械に乗りたかっただけで、その戦闘機の飛ぶ空が〈護国の空〉だったのです」。彼はたいへん優秀なパイロットだったが、英雄になりたいわけでもなく、「護国」の精神とは無縁だった…。

